

商業簿記 ①

問題1

損益計算書 (一部)

自：平成19年4月1日 至：平成20年3月31日

(単位：円)

I	売上高			
1	一般売上高	(12,840,000) ⑤
2	割賦売上高	(9,500,000)
3	積送売上高	(8,220,000) ⑤
4	試用売上高	(4,800,000) ⑤
5	未着品売上高	(1,875,000) ⑤
			<u>37,235,000</u>)
II	売上原価			
1	商品期首棚卸高	(1,870,000) ⑤
2	当期商品仕入高	(26,550,000) ⑦
	小計	(28,420,000)
3	戻り商品	(290,000) ⑤
	合計	(28,710,000)
4	商品期末棚卸高	(3,235,000) ⑤
	差引	(25,475,000)
5	棚卸減耗費	(61,000)
6	商品評価損	(20,000) ⑤
	売上総利益		<u>25,556,000</u>)
			<u>11,679,000</u>)
III	販売費及び一般管理費			
1	・・・		・・・	
2	戻り商品損失	(430,000) ⑤
3	・・・		・・・	

商業簿記 ②

問題2

連結貸借対照表 (略式)
平成×4年3月31日現在

(単位：円)

資 産	金 額	負 債 及 び 純 資 産	金 額
現 金 預 金	5,290,000	支 払 手 形	(4,400,000)
受 取 手 形	(9,300,000 ④)	買 掛 金	(5,600,000)
売 掛 金	(6,200,000)	短 期 借 入 金	(5,500,000 ④)
有 価 証 券	1,970,000	未 払 法 人 税 等	760,000
棚 卸 資 産	(1,995,000 ④)	繰 延 税 金 負 債 (流 動) *	(10,000 ④)
未 収 利 息	(90,000 ④)	前 受 金	1,700,000
繰 延 税 金 資 産 (流 動) *	(不 要)	未 払 利 息	(250,000)
短 期 貸 付 金	(0)	長 期 借 入 金	(10,000,000)
建 物	24,050,000	繰 延 税 金 負 債 (固 定)	(1,112,000 ④)
備 品	14,220,000	退 職 給 付 引 当 金	1,930,000
土 地	(9,700,000 ④)	資 本 金	(20,000,000 ④)
の れ ん	(735,000 ④)	資 本 剰 余 金	(10,000,000)
投 資 有 価 証 券	2,400,000	利 益 剰 余 金	(13,948,000 ④)
長 期 貸 付 金	(4,000,000)	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	(600,000)
貸 倒 引 当 金	(△ 390,000 ④)	少 数 株 主 持 分	(3,750,000 ④)
	(79,560,000)		(79,560,000)

※繰延税金資産（流動）と繰延税金負債（流動）のうちどちらかが不要であれば、その金額欄に不要と記入しなさい。

予想採点基準

⑦… 7点×1 = 7点

⑤… 5点×9 = 45点

④… 4点×12 = 48点

合計 100点

会計学

問題1

番号	正誤欄	理 由
1		
2	×	外貨建売掛金の換算損(為替差損)(純額)は、営業外費用に計上する。
3	×	営業の必要に基づいて経常的に発生する貸付金に係る貸倒引当金繰入額は、販売費及び一般管理費に計上する。
4	×	自己株式の取得に係る付随費用は、損益計算書の営業外費用に計上する。
5		
6	×	その他資本剰余金を原資とする剰余金の配当は、その他資本剰余金の変動事由として記載する。
7	×	アップストリームの場合、未実現利益は親会社の棚卸資産に含まれている。
8		
9	×	キャッシュ・フロー計算書の「現金」には、貸借対照表の「現金」に含まれない要求払預金が含まれているため、両者は一致しない。
10	×	一株当たり当期純利益は普通株式に係る当期純利益を普通株式の期中平均株式数で割って計算する。

会計学 ②

問題2

問1

○または×を書く											各①
a.	○	b.	○	c.	○	d.	×	e.	○	f.	

問2

ア	個別法	イ	総平均法	ウ	移動平均法	各②
エ	後入先出法	オ	先入先出法			

問3

	損益計算書での扱い (表示場所)
原価性のあるもの	売上原価の内訳科目又は販売費及び一般管理費
原価性のないもの	営業外費用又は特別損失

各②

問4

評価方法	通常の販売目的で保有している商品は取得原価をもって貸借対照表価額とし、期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額とする。
------	---

④

問5

1.

減損損失の金額	2,100,000 円
---------	-------------

 ②

2.

貸借対照表での表示			
固定資産の部			
1 有形固定資産			
備品	2,900,000		
減価償却累計額	1,800,000	1,100,000	

 ②

問6

資産評価の考え方	棚卸資産や固定資産については、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合には、帳簿価額を切り下げる。
----------	---

④

問7

項目の違い	割賦売掛金、商品
-------	----------

④

問題3

損益計算書		(a)の取引が加わった場合	(b)の取引が加わった場合	(c)の取引が加わった場合	(d)の取引が加わった場合
営業利益	200,000	200,000	200,000	199,820	199,760
経常利益	180,000	180,000	180,000	179,820	179,736
税引前当期純利益	96,000	96,100	96,000	96,000	95,736

(注) (a), (b), (c), (d)の条件をそれぞれ独立して考えること。例えば、(a)に(b)の取引を加えることはしない。

各②

予想採点基準

④… 4点×13 = 52点

②… 2点×21 = 42点

①… 1点×6 = 6点

合計 100点

工業簿記

問1 第1工程月末仕掛品原価 3,798,220 円 ⑤

問2

借 方		貸 方	
第2工程仕掛品	18,170,000	第1工程仕掛品	19,078,500
第1工程半製品	908,500		

⑩

問3 異常仕損費 1,355,160 円 ⑩

問4 第2工程月末仕掛品原価 4,765,600 円 ⑩

問5

第2工程仕掛品

月初棚卸高	2,954,810		⑤	製 品	20,309,000		⑩
第1工程仕掛品	18,170,000		⑩	副 産 物	373,750		⑩
第2工程加工費 ※	5,678,700		⑩	仕 損 費	1,355,160		⑤
				月末棚卸高	4,765,600		
	26,803,510				26,803,510		

問6 第2工程月末仕掛品原価 2,711,941 円 ⑩

問7 原料は 第1工程の始点でのみ投入され、 } ⑤
 その後の工程では 加工するだけの生産形態

※加工費でも可

予想採点基準
 ⑩…10点×8 = 80点
 ⑤…5点×4 = 20点
 合計 100点

原価計算 ①

問題 1

- 問 1 (270) 円 ④
問 2 (115) 円 ④
問 3 (295) 円 ④
問 4 (61,017) 個 ④
問 5 (455) 円 ⑦

計算過程

販売価格をPとおくと

$$80,000P - 30,400,000\text{円} = 30,000,000\text{円} \times 20\%$$

$$80,000P = 36,400,000\text{円}$$

$$P = @455\text{円}$$

- 問 6 (437) 円 ⑦

計算過程

$$\frac{30,400,000\text{円} \times (1 + 15\%)}{80,000\text{個}} = @437\text{円}$$

- 問 7 (56.25) % ⑦

計算過程

販売価格をPとおくと

$$80,000P - 21,600,000\text{円} = 80,000P \times 36\%$$

$$51,200P = 21,600,000\text{円}$$

$$P = @421.875\text{円}$$

$$\frac{@421.875\text{円} - @270\text{円}}{@270\text{円}} = 56.25\%$$

- 問 8 (425) 円 ⑦

計算過程

販売価格をPとおくと

$$80,000P - (@155\text{円} \times 80,000\text{個} + 18,000,000\text{円}) = 30,000,000\text{円} \times 12\%$$

$$80,000P = 34,000,000\text{円}$$

$$P = @425\text{円}$$

原価計算 ②

問題 2

問 1 (33,600) 円原価節約になるので ((b)) 案を採用すべきである。 ⑧

計算過程

$$@1,400円 \times 480個 + @1,540円 \times 240個 = 1,041,600円$$

$$@1,400円 \times 720個 = 1,008,000円$$

$$1,041,600円 - 1,008,000円 = 33,600円$$

問 2 (212,800) 円原価節約になるので ((a)) 案を採用すべきである。 ⑧

計算過程

$$@1,400円 \times (480個 - 200個) + @1,540円 \times (240個 - 160個) = 515,200円$$

$$@1,400円 \times (720個 - 200個) = 728,000円$$

$$728,000円 - 515,200円 = 212,800円$$

問 3 (105,000) 円原価節約になるので ((a)) 案を採用すべきである。 ⑧

計算過程

$$@1,400円 \times [480個 - (200個 - 140個)] + @1,540円 \times [240個 - (160個 - 70個)] = 819,000円$$

$$@1,400円 \times [720個 - (200個 - 140個)] = 924,000円$$

$$924,000円 - 819,000円 = 105,000円$$

問 4 (87,000) 円利益が多くなるので ((b)) 案を採用すべきである。 ⑧

計算過程

$$(@4,800円 \times 480個 + @4,000円 \times 240個) - 819,000円 = 2,445,000円$$

$$@4,800円 \times 720個 - 924,000円 = 2,532,000円$$

$$2,532,000円 - 2,445,000円 = 87,000円$$

問題 3

問 1 (473,430) 円

問 2 (81,098) 円

計算過程

$$5,000,000円 \times (1 - 10\%) \div 3年 \times 40\% = 600,000円$$

$$\{1,500,000円 \times (1 - 40\%) \times 0.8929 + 3,400,000円 \times (1 - 40\%) \times 0.7972$$

$$+ 2,000,000円 \times (1 - 40\%) \times 0.7118\} + 600,000円 \times (0.8929 + 0.7972 + 0.7118)$$

$$+ 500,000円 \times 0.7118 - 5,000,000円 = 81,098円$$

問 3 (2,120,000) 円

計算過程

$$2,000,000円 \times (1 - 40\%) + 600,000円 + 200,000円 + (500,000円 - 200,000円) \times 40\% = 2,120,000円$$

予想採点基準

$$\textcircled{10} \cdots 10点 \times 2 = 20点$$

$$\textcircled{8} \cdots 8点 \times 4 = 32点$$

$$\textcircled{7} \cdots 7点 \times 4 = 28点$$

$$\textcircled{4} \cdots 4点 \times 5 = 20点$$

合計 100点